

生徒AI指導スタートガイド

使い方を教えれば、AIは最高の学習パートナーになる

対象：生徒のAI活用を指導したい先生



EVIDENCE-BASED INSIGHT

「禁止では守れない」——研究が示す現場の現実

海外のRCT（ランダム化比較試験）で確認されていること：「答えを出させる使い方」は学力を下げ、「ヒントに留める使い方」は学力を保つか向上させる。生徒はすでにAIを使っている。大切なのは「使わせない工夫」より「正しい使い方を教える工夫」。先生が使い方を教えた生徒は、教えられなかった生徒より批判的思考力も高くなる。



思考停止する使い方 vs 考えを深める使い方

✕ 思考停止する使い方	教科・場面	✓ 考えを深める使い方
NG 「この方程式を解いて」と丸投げ→答えをそのまま写す	数学 問題演習	OK 「私はここまで考えた。どこで間違えているか段階的にヒントだけ教えて」
NG 「環境問題についてまとめて」→コピペして提出	国語・社会 作文・レポート	OK 「私の下書きを読んで、主張の弱い所と論拠が足りない所を3つ質問して」
NG 「この英文を訳して」→和訳をそのまま使う	英語 読解・英訳	OK 「私の英訳を見て、自然な表現に直す前に何が不自然か教えて」
NG 「江戸時代の特徴を教えて」→出力をそのまま暗記	社会・歴史 知識整理	OK 「この出力に意図的に1か所誤りを入れて。自分でファクトチェックする練習に使いたい」
NG 「光合成のしくみを説明して」→理解できないまま写す	理科 概念理解	OK 「私が自分の言葉で説明するから、間違いや足りない部分だけ指摘して」



生徒に渡す「AIの頼み方の型」3種 — そのままスマホに打てるプロンプト例つき

【 】の部分で教科・内容に書き替えて生徒に渡してください。



型1

壁打ち型

答えを言わずヒントだけもらう

目的：自力で考える力を守りながらAIを使う。解答を教わるのではなく、思考のどこが止まっているかを気づかせてもらう。

PROMPT EXAMPLE

私は今【数学の二次方程式】を解こうとしています。
私の考え：【ここに自分の途中式や考えを書く】

答えは絶対に言わないで。私の考えのどこが間違っているか、段階的にヒントだけ出してください。解けたら一緒に喜んでください。



型2

推敲パートナー型

下書きの弱点を質問してもらう

目的：自分で書いた下書きを自分で改善する。AIに書き直させるのではなく、問題点を「質問」というかたちで引き出す。

PROMPT EXAMPLE

以下は私が書いた【環境問題についての意見文】の下書きです。
【ここに下書きを貼る】

書き直さないで。「主張の根拠が薄い所」「論理が飛んでいる所」「具体例が足りない所」について、3つだけ質問してください。私が自分で改善します。



型3

検証型

根拠と出典を問い批判的に読む

目的：AIの出力を鵜呑みにしない力を養う。「本当に正しいか」を調べる習慣＝情報リテラシーの実践トレーニング。

PROMPT EXAMPLE

あなたが今教えてくれた内容について確認します。
1. この情報の根拠を教えてください
2. 確認できる公式な出典はありますか
3. この説に反対する立場からの意見も教えてください

※私はその後、自分で調べて正誤を確かめます。

生徒AI指導スタートガイド

声かけフレーズ・文科省ガイドライン・運用の鉄則

対象：生徒のAI活用を指導したい先生

先生の「声かけフレーズ10選」

AIを使った後に生徒に投げかける一言。「コピペだな」と感じたときも、否定ではなく問いで返すことで思考が動き出します。

- 「それ、自分の言葉で言う？」
AIの出力を自分の言語に変換させる。理解の深さを確かめる最短の問い。
- 「AIの答えで一番納得できなかった所は？」
批判的読解の出発点。「違和感」を言語化させることで主体的な思考が始まる。
- 「AIに聞く前、自分はどこまで考えた？」
思考プロセスを振り返らせる。答えより「問いへの向き合い方」を大切にする姿勢を育てる。
- 「その情報、どこかで確認した？」
ファクトチェックの習慣づけ。AIはもっともらしい誤りを出すことがあると体験で学ぶ。
- 「AIとどんなやり取りをした？見せて」
対話ログを共有させることで、問いの立て方・使い方を一緒に振り返られる。
- 「もしAIがなかったら、次に何を？」
AI依存を防ぐ問い。「自分で調べる手段」を持っているかどうかを確認する。
- 「AIに反論できる？」
AIの答えが唯一の正解でないことを実感させる。批判的思考と論述力を同時に鍛える。
- 「この答えをAIに出させたプロンプトを教えてください」
問いの質が出力の質を決めるという体験的理解につながる。プロンプト設計力の育成。
- 「AIに頼んで良かったこと・良くなかったことは？」
メタ認知を促す。自分のAI活用を俯瞰して評価できる力が「AI時代のリテラシー」の核心。
- 「今日のAIとのやり取りで、一番自分が成長した部分は？」
学びの主体は生徒自身であることを意識させるための問い。授業後の振り返りや日誌にも使える。

文科省ガイドラインVer.2.0 — 教育現場への示唆



2024年12月 Ver.2.0

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン

文部科学省 — 「生成AIと共に学ぶ」時代への公式指針（文部科学省初等中等教育局 令和6年12月26日）

暫定版（2023年）
慎重な姿勢を基本
限定的な利用からVer.2.0（2024年）
活用を前提とした
指導設計へ

01

禁止でなく「活用前提」の指導設計

「一律に禁止・義務付けするものではない」と明記。生成AIを人間の能力を補助・拡張する道具と捉え、使い方を教えることが求められる。



02

個人情報・著作権への留意

氏名・写真などの個人情報は入力しない。著作物の無断・類似生成は行わず生成過程を確認可能な状態に保つ——3主体共通の原則。



03

批判的思考・情報活用能力の育成

AIの出力を鵜呑みにしない力が重要。ファクトチェック・一次情報への当たり方・プロンプトの質を高める思考力が新しい基礎学力。



04

教師の専門性はむしろ高まる

AIが代替できない「関係性・動機づけ・文脈読み取り」が教師の核心。人格的な触れ合いを通じた教育の重要性が改めて位置づけられた。



塾・民間教育機関への示唆：ガイドラインは学校向けですが、保護者・生徒の「AI活用の基準線」になります。「ガイドラインの趣旨に沿った使い方を指導する塾」として訴求することが信頼構築につながります。

運用の鉄則



入力してはいけないもの

- 生徒の実名・学校名・学年（個人を特定できる情報）
- 成績・テスト結果・通知表の数値
- 家族構成・住所・連絡先などのプライバシー情報
- 学校の内部文書・未公開情報
- 他者の著作物の全文（問題集・教科書の転載）



無料ツールで完結できること

- ChatGPT・Gemini・Claude いずれも無料プランで十分活用できる
- 生徒のスマホ1台でヒント型・検証型の学習が成立する
- アカウント登録は保護者の同意を得てから（13歳未満は特に注意）
- 対話ログはコピーして保存・提出できる（振り返りに有効）
- 共有端末を使う場合はログアウト徹底



NEXT STEP

今日の課題を1つ、AIに「30秒で解かせて」みましょう。「解かれた」を直視することが、指導設計を変える最初の一步です。

セミナーB 領域B版では「解かれない課題の作り方」「生徒用AIルールブック」を3時間ハンズオンで完成させます。詳細: seminar.thought-up.com TEL: 089-989-2464

● 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」2024年12月26日

● 海外RCT研究：Bastani et al. (2024) および Khanmigo Research Report 2025-26 に基づく